



令和7年度野田市立小中学校PTA連絡協議会合同研修会

持続可能なPTA活動を目指して

野田市立山崎小学校
PTA会長 常盤 臣



はじめに

本スライドは、11月22日に開催された
千葉県PTA研究大会匝瑳大会の発表資料を
少し手直ししたものです



令和のPTAへの変革

持続可能な組織運営を目指して

—組織風土改革とデジタル化を両輪とした、新しいPTAモデルの構築—

野田市立山崎小学校
PTA会長 常盤 臣



発表者紹介

野田市立山崎小学校 PTA 会長 常盤 臣

- 3年前に野田市へ転入
- 4児の父、山崎小には小4・小1の娘が在籍
- 令和6年度に会長就任 (今年度で2年目)
- 就任時の決意: “昭和から続く前例踏襲をなくし、現代に合った持続可能な組織へ変える”



本日のアジェンダ

今日お伝えしたいこと

- 1 なぜ今、PTA 改革が必要なのか？
- 2 PTA における「持続可能性」の定義
- 3 実践①：透明化と DX 推進
- 4 実践②：任意加入と組織のスリム化
- 5 実践③：役割の再定義と外部への働きかけ
- 6 実践④：「総会」を対話の場へ
- 7 成果と今後の課題

01

1. なぜ今、PTA改革が必要なのか？



PTAを取り巻く環境の変化

「昭和」のスタンダードから「令和」のリアルへ

昭和のスタンダード

- 専業主婦世帯が多数派
- 地域のつながりが強い
- 紙と電話での連絡
- “みんなと同じ”が基本
- 全員加入が暗黙の前提

令和のリアル

- **共働き世帯が多数派** (7割以上)
- ライフスタイルの多様化
- 時間的・精神的余裕のなさ
- 個人の価値観を尊重
- デジタルツールでの常時接続



従来型PTAモデルの課題

持続可能性を阻害する「昭和の慣習」

全員加入の“常識”

任意団体であることの認識が薄く、半ば強制的な加入が前提となっている

一人一役・ポイント制

活動への参加が義務となり、**保護者の大好きな負担**となっている

前例踏襲の事業運営

「去年もやったから」という理由で、形骸化した活動が温存されがち



改革への決意

“

このままではいけない
子どもたちのためにあるべき PTA が、保護者の
負担になつてはいけない

2. PTAにおける「持続可能性」の定義



持続可能性 (Sustainability) とは？

一般的な定義とPTAへの応用

- 一般的な定義 (SDGsなど): 環境・社会・経済の3側面において、**将来世代のニーズを損なうことなく、現代世代のニーズを満たすこと**
- PTAにおける持続可能性: PTA の本来の目的 (=子どものため) を達成し続けるために、**組織運営が将来にわたって継続できること**
- 保護者の**過度な負担や義務感に依存しない**仕組みであること
- 「やらされるPTA」から「自ら関わるPTA」への意識変革



PTA の本来の目的と役割

私たちは、何のために集まっているのか

- PTA は、**親と教師が協力**して子どもの健全な成長や教育環境の向上を目指す団体
- 日本では戦後、GHQ の指導により設立された歴史 (1947年)
- **最も大切な目的:** 「**子どもの健全な成長や教育環境の向上を目指す**」こと
- しかし、その活動を担う組織自体が持続可能でなければ、この目的を達成し続けることはできない



山崎小 PTA の活動ビジョン

「子どものため」を具体化する2つの柱

ビジョン 1: 安全への寄与

何よりも**子どもの安全に寄与**できる
活動をすること
(旗振り、安全パトロール等)



ビジョン 2: 体験・体感の提供

子どもたちが**「体験」「体感」**できる
活動をすること
(イベント企画等)





持続可能な PTA へのスローガン

“

できる人が、できるときに、できることを。

— 山崎小 PTA 『令和の PTA』 の合言葉

03

3. 実践①：透明化とDX推進



PTA ホームページの開設

開かれた PTA のための情報基盤整備

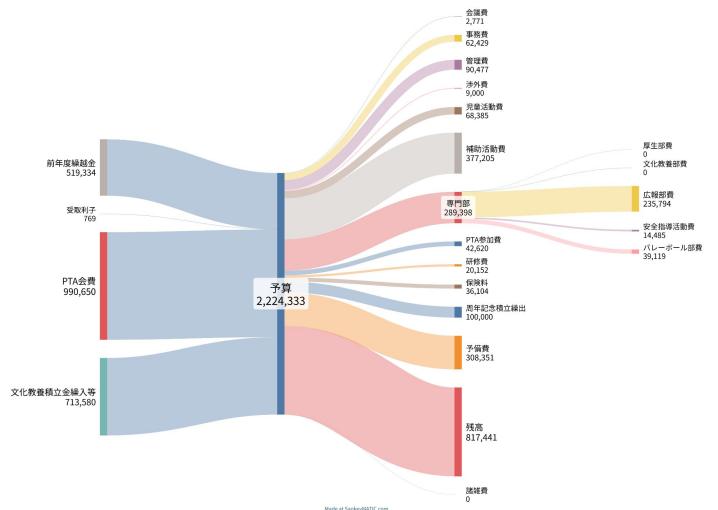
- PTAの組織や活動内容、規約、各種届出用紙などを**すべて公開**
- 誰もがいつでも情報を得られる環境を整備し、**活動の透明性**を飛躍的に高める
- 会員・非会員を問わず、PTA 活動への理解を促進
- 問い合わせフォームも設置し、意見や質問を受け付ける窓口を一本化



会計の透明化: サンキー図の活用

お金の流れを「見える化」する取り組み

- 総会資料において、**収支報告をサンキー図で可視化**
- どこから収入があり、何に支出されているかが一目瞭然
- 特に「任意加入」で財源が限られる中、事業の選択と集中を議論するうえで不可欠なプロセス
- 持続可能性(財源)の議論**を行うための重要な透明化措置





安全指導活動の改革 (DX)

「紙と手渡し」の慣習を廃止し、負担を大幅削減

- 1 **Before:** 従来の活動 – 回覧板での情報伝達、横断旗のリレー
- 2 **DX 1:** 当番表をホームページに掲載 (パスワード付)
- 3 **DX 2:** 横断旗を全会員に配布 (手渡し廃止)
- 4 **DX 3:** 活動日誌も Google フォームへ移行
- 5 **After:** 各家庭の負担と個人情報保護のリスクを大幅に軽減



コミュニケーションツールの導入

LINE WORKS による円滑な情報共有と募集

- 会員限定の情報共有や**有志メンバーの募集**を円滑化
- PTA本部からの情報発信を、紙媒体や学校の連絡網から**PTA独自のチャネルへ移行**
- 広報誌に掲載しきれなかった写真の限定公開などにも活用
- 旗振り当番のリマインド(前日夜・当日朝・旗振り後の報告)を実現

04 4. 実践②: 任意加入と組織のスリム化



任意加入の明文化と実運用

「自動加入」から「意思確認」へ

- PTAが**任意団体であることを**規約やホームページで明確化
- 入会届・退会届を整備し、いつでも提出可能に
- 令和7年度新入生からは、**入会届の提出をもって加入**とする運用に変更
- 新入生向け説明会でも「入会は強制ではない」「入会しなくても子どもに不利益はない」と明言



結果：加入率の変化

任意加入の徹底がもたらした現実

令和6年11月時点

加入家庭数

297

令和7年4月時点

268 ↓

未加入家庭数

1 (0.3%)

31 (10.4%) ↗

加入率

99.7%

89.6% ↓



個人情報保護体制の整備

任意団体としてのコンプライアンス強化

- PTAが独自に個人情報を管理するための体制を構築
- 「個人情報取扱規則」や「プライバシーポリシー」を策定・公開
- 学校とは**業務委任契約を締結**
- これにより、学校から提供される個人情報(名簿など)を適正に管理する法的根拠を整備



組織のスリム化(ビフォーアフター)

「一人一役」の廃止と組織の抜本的見直し

令和6年度までの組織図

- PTA本部
- 多数の専門委員会
卒業対策, 選考, バザー, 青少年補導, 給食
- 多数の専門部
厚生, 広報, 文化教養, 安全指導, バレーバール
- 各種係
家庭教育学級, イベント協力

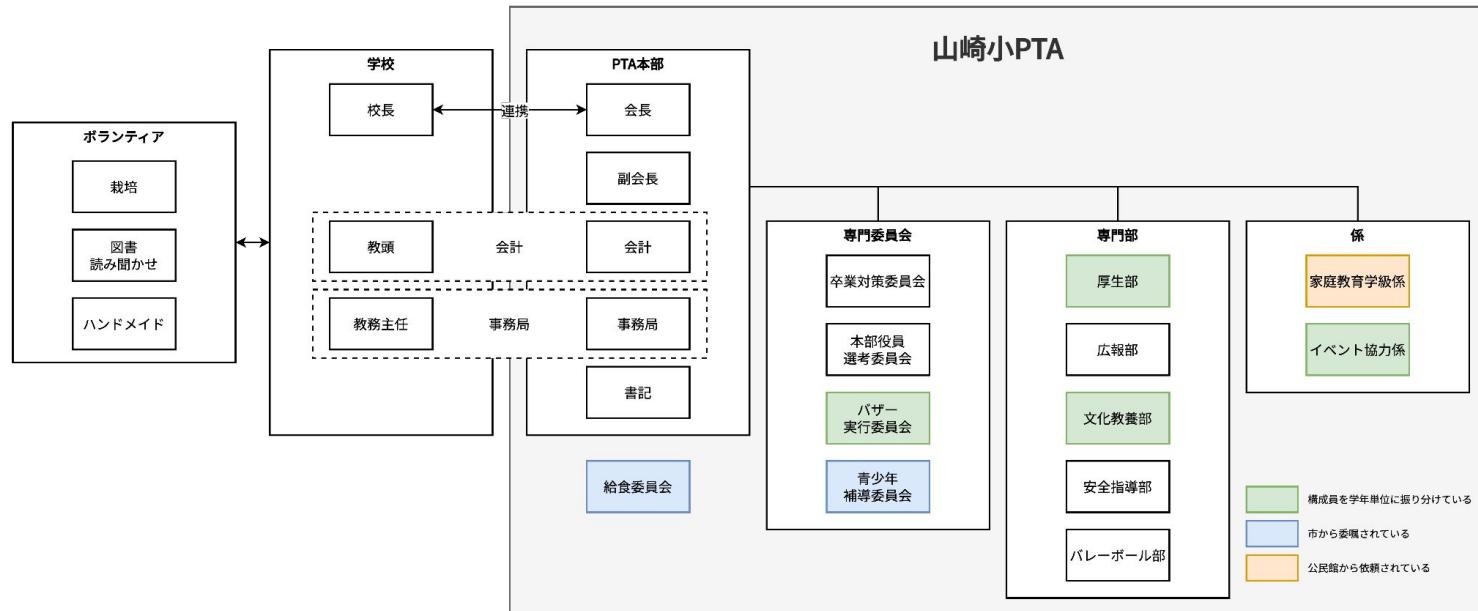
令和7年度の組織図

- PTA本部
広報・安全担当を内包
- 専門委員会
卒業対策、選考のみに縮小
- **専門部・係を大幅に廃止・統合**
- **サークル制度(任意作成)を新設**



組織のスリム化(ビフォー)

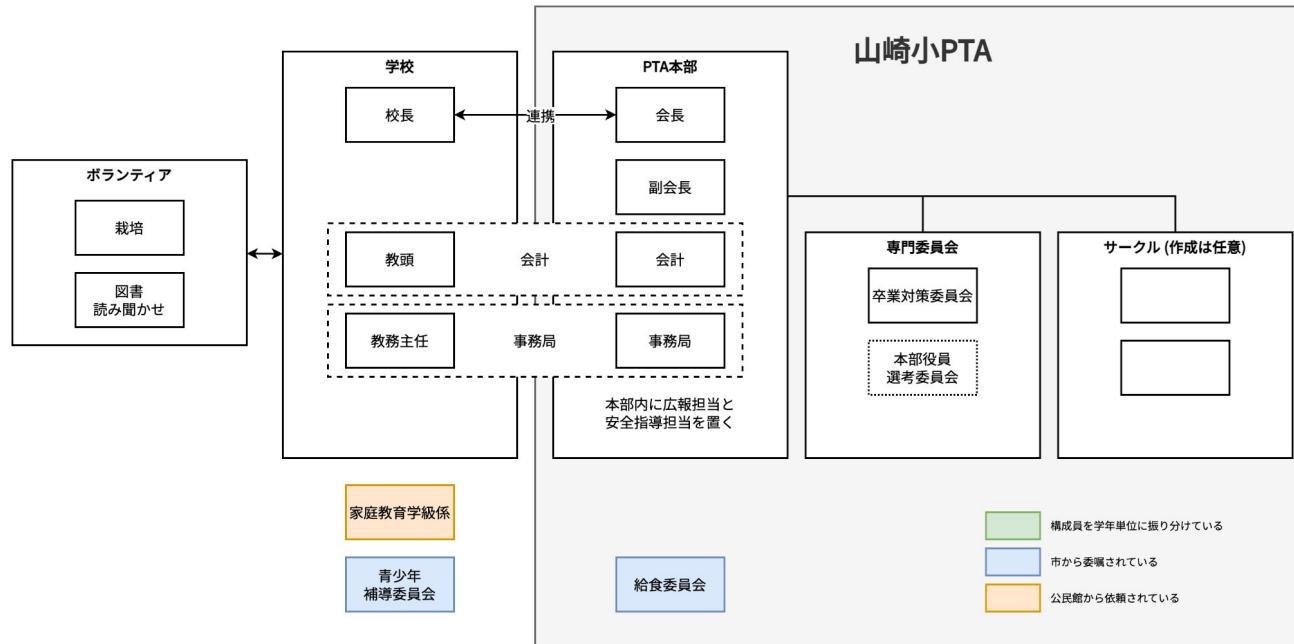
「一人一役」の廃止と組織の抜本的見直し





組織のスリム化(アフター)

「一人一役」の廃止と組織の抜本的見直し





サークル制度の導入

「やりたい活動」を後押しする新しい枠組み

- 従来のボランティア団体が抱えていた課題(運営のOG化、PTA会費からの支出)を解決
- PTA会員が「自分たちの意思で、子どもたちのために主体的に活動できる枠組み」として新設
- 活動内容は精査・承認が必要
- 定期報告と予算使途の明確化を必須とし、継続判断を行う

05

5. 実践③: 役割の再定義と外部への働きかけ



問題提起：学校運営費の補填問題

PTA会費が、学校の備品購入費等を補填している現状

- 従来、PTAが学校備品の購入や学校行事の補助など、**学校が本来負担すべき費用の一部を賄う**ケースが散見された
- 問題点①: PTAが補填を続けると、**自治体の予算配分が十分に行われない**懸念(悪循環)
- 問題点②: 任意加入で会費収入が減少すれば、**もはや補填し続けることが困難**になる
- このままでは教育環境の充実が阻まれる可能性



外部への提言：市P連への要望書

持続可能な学校運営と PTA 活動の在り方を問う (令和7年3月)

1. 学校運営費の適正な予算確保

PTA が補填する必要がないよう、野田市へ十分な予算配分を働きかけてほしい

2. 役割分担のガイドライン明確化

市の教育行政と PTA の役割の線引きを明確にしてほしい

3. 任意加入後の活動維持への支援

財源減少後も活動が継続できるよう、自治体予算等でカバーする仕組みを検討してほしい



市P連主催事業の見直し

「前例踏襲」事業の打ち切り

- **対象事業:** 市P連主催のバレーボール大会 (昨年度で第49回)
- **課題:** 参加校の減少 (合同チームや OG 参加で維持)
- 近い将来、大会開催そのものが危うい状況
- **自校は不参加なのに大会運営は必須**、という矛盾も発生しうる
- **結果:** 私が市P連副会長の任にあった年度に**主催打ち切りの方針を主導**

06

6. 実践④：「総会」を対話の場へ



総会の位置づけの変更

「決議の場」から「対話とビジョン共有の場」へ

- 従来: 議案を一方的に報告し、拍手で承認する「儀式」になりがち
- 改革後: PTA の理念やビジョンを会長自身の言葉で語る場とする
- 会計報告の透明化 (サンキー図) など、**情報開示を徹底**
- 会員から寄せられた**意見・質問に誠実に回答**し、その内容を全会員に公開
- 反対意見 (議案への反対票) も隠さず公開



総会での主な質疑応答 (抜粋)

Q. 事務費のTシャツは何のため？まさか本部だけが着てる？

A. 本部およびイベント関係者の識別用でバレー応援、山小フェス等で使用。一部メンバーは実費購入 (PTA 予算不使用)。

Q. なぜPTAが自主学習ノートを購入したのか？

A. 前校長の「自ら学ぶ姿勢」を育む取り組み。学力向上に結果も出ている。一方で、PTA 会費を使う是非の意見あり。

Q. 広報部の印刷代はムダ。時代錯誤だ。

A. 改善未着手だった点は認める。今後は業者見直しで費用削減し、ネット活用に切り替えていく。

Q. サークル活動は報告だけ？精査しないのか？

A. 精査する。申請段階で趣旨に沿うか判断し、活動報告と予算使途に基づき継続判断を行う。

07

7. 成果と今後の課題



改革によって得られた成果

変わり始めた「意識」と「仕組み」

- 保護者からの共感の声 「時代に合った活動をしてほしい」「できる人がやればいい」
- 活動のデジタル化による**本部役員の負担軽減**
- ホームページによる情報公開で、**PTA活動への理解が促進**
- **最大の成果:** 「やらされるPTA」から「**自ら関わるPTA**」へと、意識が変わり始めたこと



直面している2つの大きな課題

持続可能性に向けた次のハードル

課題 1: 財源の減少

任意加入の徹底による**加入率の低下 (約10%減)**と、それに伴う会費収入の減少。限られた財源でいかにビジョン（子どもの安全・体験）を実現するか。

課題 2: 属人化の防止

改革が**特定の個人のリーダーシップに依存**しないよう、誰が役員になっても理念が引き継がれ、運営が継続していく仕組みづくりが急務。



私たちが目指すPTAの姿

『令和のPTA』が目指す4つの姿

1. 強制ではなく、自発的に

「関わりたい」と思える空氣づくりを大切にする

2. 任意加入でも活発に

「関わりやすさ」を徹底し、参加してよかったです
と思える価値を提供する

3. 持続可能な運営体制

属人化を防ぎ、過去の慣習にとらわれず柔軟に見直しを続ける

4. 子どもたちの未来のために

大人が楽しそうに関わる姿を見せる、その背中を
子どもたちは見ている



おわりに

PTAは、子どもたちにとって**最も身近な応援団**です

“その応援団である私たち大人が、義務感に縛られるのではなく、楽しみながら活動する姿を見せてることこそが、持続可能性を高め、子どもたちの未来への最高の贈り物になるのではないか”

ご清聴ありがとうございました

キャラクター: 山りん

令和6年度、校内でキャラクターを
募集して決定しました



野田市立山崎小学校PTA